

7月のてがたんは、残念ながら雨のため中止になってしまいました。7月3日(日)に実施した下見からてがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回8月のてがたんは8月13日(土)で、テーマは「魚を釣って観察しよう」です。

*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見は、8月7日(日)の9:30からです。

7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→藤棚→鳥博駐車場→親水広場
- 観察日時と天気：2016年7月3日(日) 10:00~12:00 晴れ
- 市民スタッフ：7人 (古川克彌、湯瀬一栄、石原直子、伊東茂子、木村稔、竹本周平、保田行弘)
- 鳥博職員： 2人 (小田谷嘉弥・美濃亜理彩)

観察した生き物の記録

【歩道に生育していた植物】

カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ/スミレ科：アリアケスミレ、スミレ/アカバナ科：アカバナユウゲショウ/キキョウ科：キキョウソウ/トウダイグサ科：トウダイグサ、オオニシキソウ、ニシキソウ、コニシキソウ、アカメガシワ/イグサ科：クサイ/アサ科：エノキ、ムクノキ/キク科：ブタナ、オオアレチノギク、オオキンケイギク/イネ科：ムラサキエノコログサ、ナギナタガヤ、シナダレスズメガヤ、ネズミムギ、セイバンモロコシ、ニワホコリ、コスズメガヤ、シバ、ギョウジャシバ/ナデシコ科：ミチバタナデシコ/スベリヒユ科：スベリヒユ/ツユクサ科：ツユクサ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/アカザ科：ゴウシュウアリタソウ/ナス科：イヌホオズキの仲間/バラ科：ピラカンサ

【鳥類】

カモ科：カルガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ウ科：カワウ/クイナ科：オオバン/タカ科：トビ/キツツキ科：コゲラ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス(声のみ)/エナガ科：エナガ/メジロ科：メジロ/ヨシキリ科：オオヨシキリ(声のみ)/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ(声のみ)

【昆虫】

トンボ目：コシアキトンボ、シオカラトンボ、コフキトンボ/ハチ目：クロヤマアリ、ベッコウバチの一種/チョウ目：モンシロチョウ、モンキチョウ、ルリシジミ、ナミアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、ヒトリガの仲間(幼虫)

観察した生き物の記録

今年のがたんのテーマは「歩道で生きるガッツな植物」でした。残念ながら中止になってしまったので、3日(日)の下見の際に観察した生き物を紹介します。博物館前から藤棚までの歩道を往復し、歩道沿いの植物を中心に観察しました。



今月の案内人 古川克彌さん、湯瀬一栄さん



①鳥博ちかくの歩道に生育していたスマイレ



③歩道を渡っていたヒトリガの仲間の幼虫。



④垣根のとの隙間に生えていた茎が赤いニシキソウ



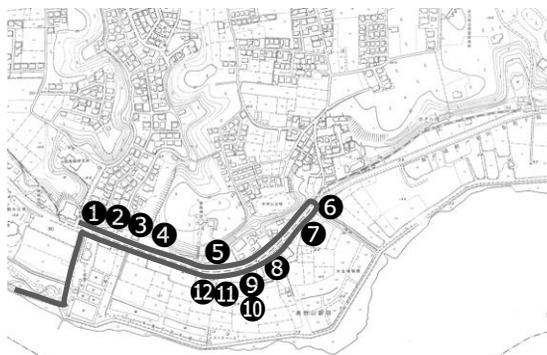
⑤砂がたまった場所に生えていたスベリヒユ



⑥ニシキソウに似る北米産のオオニシキソウ



②コンクリートの歩道に生えていたニワホコリ。アフリカのエチオピアでは近縁種が主食とされているそうです。



歩いたルートと観察した生き物



⑧コンクリートの隙間に根を張って成長したエノキ。ここでは大きくなって管理者に切られてしまいます。



⑦道端の草に止まっていたコフキトンボ(オビ型)



⑨ナガミヒナゲシの子房を開いてみると...



⑩すごい数の種子! 1株で15万粒にもなるそうです。



⑪車に衝突してしまったコシアキトンボ



⑫道端に生えていたアカメガシワ

今月の鳥 オオヨシキリ スズメ目ヨシキリ科

オオヨシキリは、5月ごろに手賀沼周辺の水辺の草地に渡来し繁殖する全身褐色の小鳥です。その名の通りヨシ原を好み、巣もヨシ原に作ります。博物館では、1980年代から手賀沼でさえずっているオオヨシキリの数をカウントする調査を続けています。調査開始から1996年までは200羽前後で推移していましたが、2009年に調査を再開してからは減少し、今年の手賀沼ではわずか43羽しか確認されませんでした。ヨシ原の面積の減少や沼沿いの歩道の人通りの増加などが減少の要因と考えられますが、はっきりとした原因はわかっていません。今後、原因の解明を進めるとともに、モニタリングを継続したいと思います。



ヨシに止まってさえずるオオヨシキリの雄